

## 職域における肝炎患者の実態調査と両立支援システム構築に関する研究

研究分担者：池田 房雄 岡山大学病院消化器内科 助教

### 研究要旨

【背景】職域における肝炎治療と仕事の両立にどのような支援が必要であるか十分な検討がなされていない。【方法】岡山大学病院消化器内科肝臓外来を定期受診している患者に職業についてのアンケート調査を実施した。【結果】肝疾患患者 198 名から回答を得た。肝がん患者と肝炎患者で雇用形態の種類は同じような比率であった。職種についても、肝がん患者肝炎患者で明らかな違いは認めなかった。肝がん患者では自営業だと 7 割が事業休業縮小していたが、肝炎患者では影響なしとの回答が多数を占めた。一方、自営業以外の場合では肝がん患者肝炎患者とも影響がなかったとの回答が 6 割以上であった。職場での治療支援体制としては業務時間短縮制度があると肝がん患者の半数は回答しているが、入院加療では休職せざるを得ず、肝炎患者で外来通院に肝がん患者同様の制度があると回答したのは 3 割弱だった。肝がん患者の 8 割、肝炎患者の 7 割は支援制度を利用していなかった。

【結語】職域における肝炎治療と仕事の両立には、職場によっては勤務制度の整備が必要な場合もあるが、職域での両立支援制度の認知度を高め、利用しやすくする必要である。

### A. 研究目的

厚生労働省のすすめる働き方改革において、肝炎治療を受けながら、続けて仕事ができるように職域での両立支援にかかわる仕組みづくりが必要と言われているが、どのような支援が必要であるか十分な検討がなされていない。

受診している肝疾患患者 198 名から仕事についてのアンケートに対する回答を得た。今回、肝がん患者（32 名）と肝炎患者（166 名）について回答結果を比較した。肝がん患者では 70 代と 80 代の高齢層が半数、男性が 75%を占めているのに対して、肝炎患者では同世代は 27%であり、男性女性は半数ずつであった。

### B. 研究方法

岡山大学病院消化器内科肝臓外来を定期受診している肝疾患患者に仕事についてのアンケート調査を実施した。

（倫理面への配慮）

当院倫理審査承認済

肝がん患者で一般企業での定年年齢より高齢の方でも実際には仕事をされており、その雇用形態も肝がん患者と肝炎患者で同じような比率であった。また、無職または年金受給者の割合は肝がん患者で 6%、肝炎患者で 10%と同程度であった。

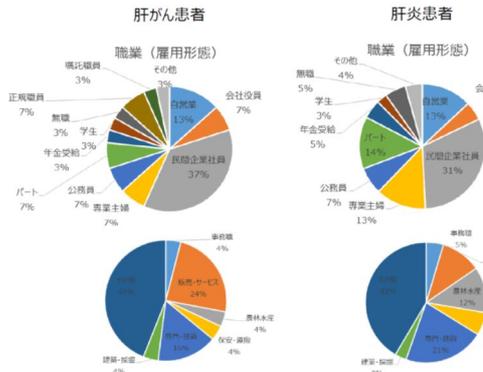
### C. 研究結果

岡山大学病院消化器内科肝臓外来を定期

職種については、肝がん患者肝炎患者ともに様々な業種が含まれており、販売・サービス業が肝がん患者の 24%、肝炎患者の

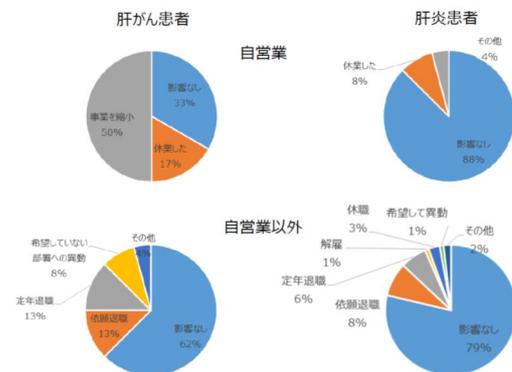
11%と肝がん患者でやや高頻度ではあったが、特に2群間で明らかな違いは認めなかった。

### 肝疾患診断時の職業



肝臓病と診断された時の職業への影響については、自営業の場合、肝がん患者では事業を休業したり縮小したりした割合が7割と多いが肝炎患者では1割程度であり、影響がないとの回答が多数を占めた。一方、自営業以外の場合では、肝がん患者の26%が退職していたが影響がなかったとの回答が62%と自営業者と比べて高頻度であった。休職や退職した患者の割合は肝炎患者でも17%と肝がん患者での割合と明らかな違いを認めなかった。また、肝炎患者では肝炎と診断され解雇された場合があり、依然として肝炎が就労上の差別偏見の原因となっていることが明らかとなった。

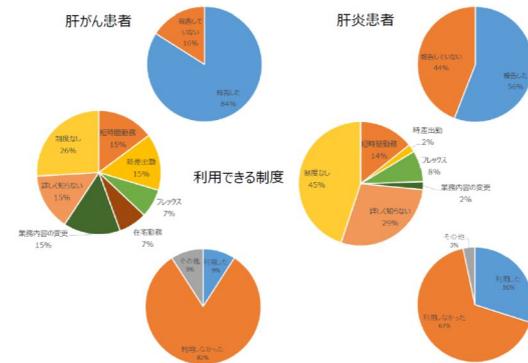
### 肝疾患診断時の職業への影響



肝臓病と診断された時の職場での受診や治療の支援体制については、職場で相談す

ると肝がん患者に対する外来通院のための業務時間短縮があると半数は回答しているが、入院加療は休職せざるを得ず肝炎患者では外来通院に肝がん患者同様の制度があると回答したのは3割弱だった。実際に利用できる制度がないために利用しなかった人が肝がんで8割、肝炎でも7割を占めていた。

### 肝疾患診断時の職場への報告



## D. 考察

本調査では、肝がん患者と肝炎患者で雇用形態の種類や職種に違いは認めなかった。自営業以外の場合には病気の影響はなかったと6割以上が回答していたが、職場での治療支援制度があっても肝がん患者の8割、肝炎患者の7割が支援制度を利用していなかったのを今後改善させる必要がある。

## E. 結論

肝炎治療と仕事を両立するためには、職場によっては勤務制度の整備が必要な場合もあるが、肝炎治療を受けながら、仕事を続けられるための支援制度の認知度を高めて制度を利用しやすくする必要がある。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

職域での出張肝臓病教室と同時開催の肝炎検診の意義 肝臓 58 巻 5 号 304-306 2017

**2 . 学会発表**

なし

**G. 知的所有権の取得状況**

**1 . 特許取得**

なし

**2 . 実用新案登録**

なし

**3 . その他**

なし